

才一田 移民後十週年

忘難難 十年前の六月十八日

日章旗を翻して入港した笠戸丸

船上の本邦移民七百九十三名

コレオ、パウリスターノ紙の激賞

何も歎も試験的な第一回移民

雨降つて地凝まる今日の盛況

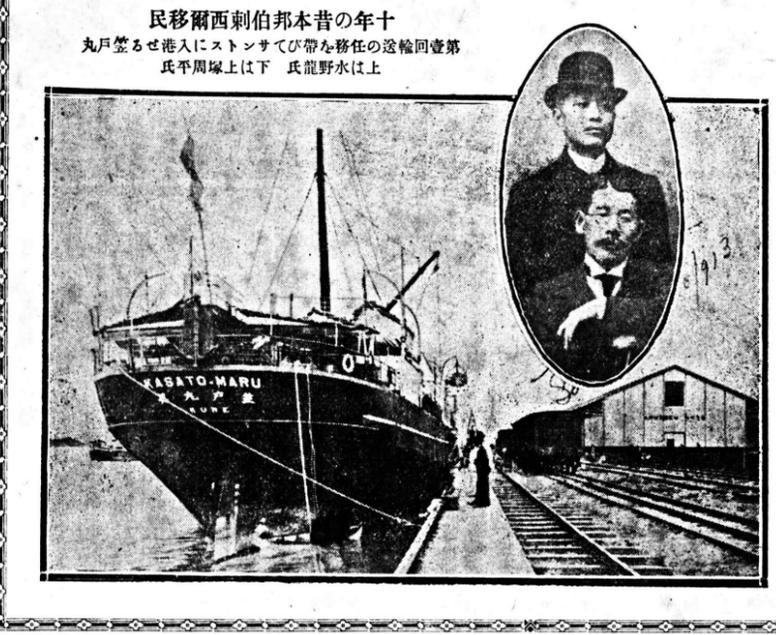
一、笠戸丸サントス

港着

明治四十年十一月十日サンパウロ州、草と珈琲で暮らした香気千萬な執務の政府と皇國殖民會社代表者水野龍二との間、珈琲耕地の勞働に従事せしむる爲め日本移民三千名を三年間に輸入する契約が締結された。此の契約に基づき第一回の契約移民六百五十五名が七月八日及自由渡航者十二名合計七百七十三名は上塚周平氏監督の下に東洋氣船株式會社所屬船笠戸丸に乗じて去る十年、明治四十一年四月二十八日神戸港を解纜し新嘉坡に寄港し印度洋を横斷してケルプタワンに寄港し五十二日の長航海を無事に終へ六月十八日サンパウロ港に到着した、其の翌十九日特別列車にて午後九時當市移民收容所に来着し煌々たる電光を浴びつ、所長を初め役員一同より迎へられた。六名の通譯は何れも生れてより初めて八百人の世話をしたので忙しきこと目眩む處ではない氣絶しても間に合ぬ位、飯を食はせる、珈琲を飲ませる、病院へ案内する、便所を知らせる、寢臺を當てかふ、湯に入れる其の混雑は實に夥多かつた。正直正銘の百姓で御座ると看板を背負ふてゐた御百姓は彷徨して氣が利かぬけれども世話をされて貰ふが當然で平氣の平左で八百の口は一つ一つに異なつた要求をなした、水が欲しい、子供が病氣だ、金を替へたい、珈琲が苦くて呑めぬ、油煎りの飯は食へない日本飯を呉れる、寒いから毛布をもう一枚、女房と隔離する、は不都合、移民でも人間で御座る、咽喉に通らぬ物を喰はせる法はない

杯腹の虫に當てがふ事の出来ない辛さは非常であつた、されど伯國人は新來の我移民に對し總て好感であつたのは嬉しかつた。今當市大新聞の一なるコレオ、パウリスターノ紙に六月二十五日(四十二年)記者ソブラー氏が書いた記事が引出して見よう

「第一回日本移民を輸送する笠戸丸は去る十八日サンパウロ港に入港せり同船は神戸港を出帆し新嘉坡及びケルプタワンの二港に寄港し五十二日



民移爾西刺伯邦本昔の年十
丸戸笠をせ港入にストンサてび帯を務任の送輪回童第
氏平周塚は上 氏龍野水は上

杯腹の虫に當てがふ事の出来ない辛さは非常であつた、されど伯國人は新來の我移民に對し總て好感であつたのは嬉しかつた。今當市大新聞の一なるコレオ、パウリスターノ紙に六月二十五日(四十二年)記者ソブラー氏が書いた記事が引出して見よう

「第一回日本移民を輸送する笠戸丸は去る十八日サンパウロ港に入港せり同船は神戸港を出帆し新嘉坡及びケルプタワンの二港に寄港し五十二日

杯腹の虫に當てがふ事の出来ない辛さは非常であつた、されど伯國人は新來の我移民に對し總て好感であつたのは嬉しかつた。今當市大新聞の一なるコレオ、パウリスターノ紙に六月二十五日(四十二年)記者ソブラー氏が書いた記事が引出して見よう

「第一回日本移民を輸送する笠戸丸は去る十八日サンパウロ港に入港せり同船は神戸港を出帆し新嘉坡及びケルプタワンの二港に寄港し五十二日

老人若くは不具者にあらずして成人移民の着用せる洋服は皆日本の大工の後に皆一人前の農民となるべき小場にて製せるものなりといふ、洋服は一般に日本全土に普及せり、食後と雖も依然として清潔を保ち、紙片若くは焼酎の樽蓋等散らかりしをせば之れ多くは收容所の給仕等

老人若くは不具者にあらずして成人移民の着用せる洋服は皆日本の大工の後に皆一人前の農民となるべき小場にて製せるものなりといふ、洋服は一般に日本全土に普及せり、食後と雖も依然として清潔を保ち、紙片若くは焼酎の樽蓋等散らかりしをせば之れ多くは收容所の給仕等

老人若くは不具者にあらずして成人移民の着用せる洋服は皆日本の大工の後に皆一人前の農民となるべき小場にて製せるものなりといふ、洋服は一般に日本全土に普及せり、食後と雖も依然として清潔を保ち、紙片若くは焼酎の樽蓋等散らかりしをせば之れ多くは收容所の給仕等

米、一滴の汁をも床上に落せしを認めざる程用意周到にして食堂の床は食後と雖も依然として清潔を保ち、紙片若くは焼酎の樽蓋等散らかりしをせば之れ多くは收容所の給仕等

米、一滴の汁をも床上に落せしを認めざる程用意周到にして食堂の床は食後と雖も依然として清潔を保ち、紙片若くは焼酎の樽蓋等散らかりしをせば之れ多くは收容所の給仕等

米、一滴の汁をも床上に落せしを認めざる程用意周到にして食堂の床は食後と雖も依然として清潔を保ち、紙片若くは焼酎の樽蓋等散らかりしをせば之れ多くは收容所の給仕等

(以下三画續)

群の如くならばサンパウロ州の富源は彼等に依りて遺憾なく開発せられ

一、耕地行

手荷物の検査は済み耕地契約も済むので耕地へ出發するばかりとなつた處が物好きな所長フラガ氏は移民に市内を見物させると云ひ出した

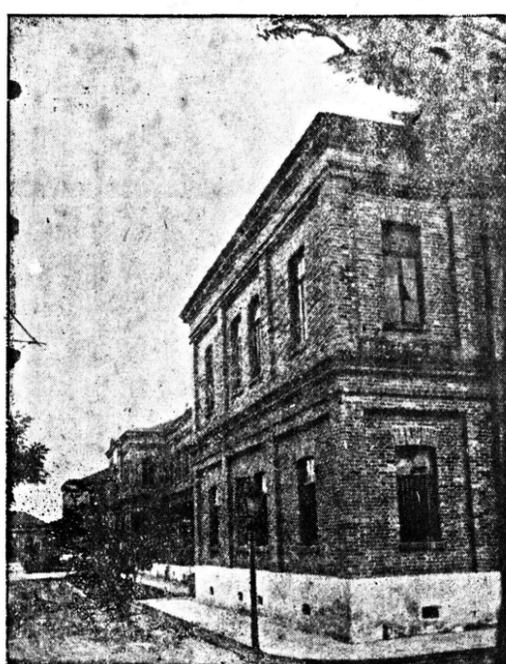
群の如くならばサンパウロ州の富源は彼等に依りて遺憾なく開発せられ

- 福島縣七人 熊本縣七八人 廣島縣四人 宮城縣一〇人 東京府三人 (サンマルティーニヨ耕地) リスタ線

- 通譯平野連平君 鹿兒島縣六十七人 高知縣一二人 新潟縣九人 (四)カナン耕地(モヂアナ線) 通譯嶺南君 鹿兒島縣百五十一人 沖繩縣百五十一人 (五)フロスタ耕地(イツアナ線) 通譯大野基尚君 二十四家族 百七十三人 沖繩縣一七三人 (六)ソブラド耕地(ソコカバナ線) 通譯仁平高君 十五家族 四十九人 山口縣二十八人 愛媛縣一二人 順次耕地へ向け出發したるして職工移民九名 鹿兒島縣五名 山口縣二名 高知縣二名はサンパウロ市に在住することとなつた

余は移民到着前にデューモン耕地へ視察の爲め出張を命ぜられ、同耕地に十五日滞在して珈琲の摘み方、節の用方、枝葉を取除けること、俵の樹目をキチンとすることや採収日備監督法や至極簡單明瞭で小供にも出来る仕事を伯人監督より委曲教示を受け耕地監督一通りの業務を

を採収し一俵一ミルレース合計九ミルレース(當時の爲替相場にて五圓四十錢)を儲け得ると呑み込んで来た土間に寝させられた、此の日は



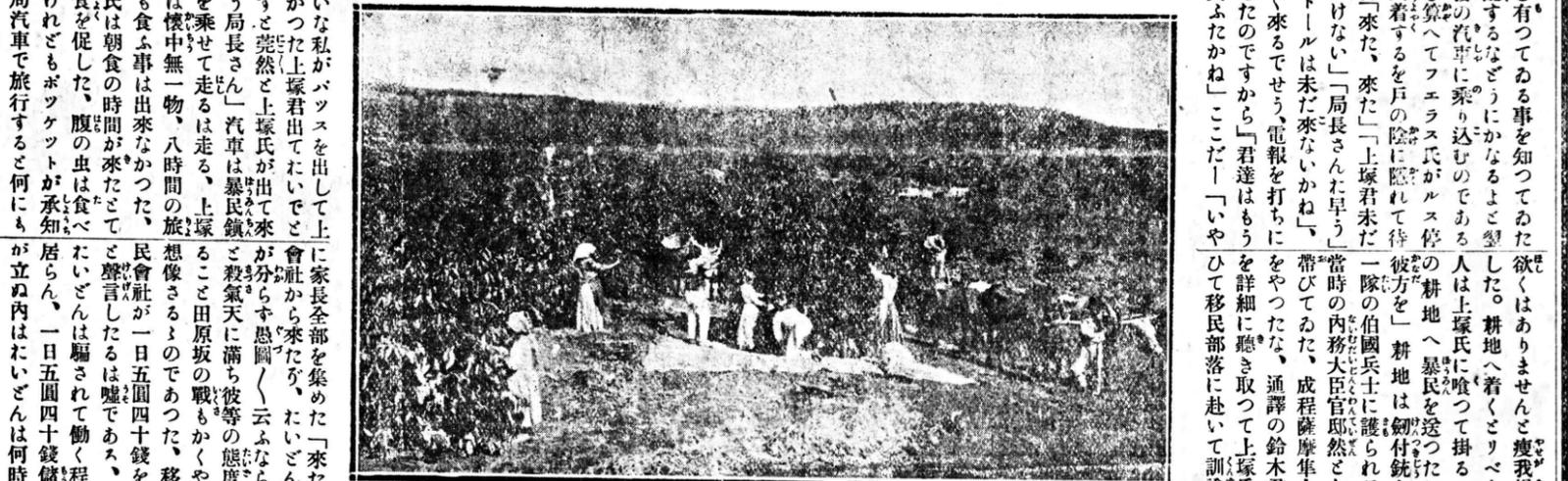
昔も今も變らぬ大なる移民收容所

に安着した。移民一同は臨時收容所き處に採取をなすときは四時に起き

して採取したことがない故に伊太利三ヶ所に分居せねばならぬ、そこで除くの外は兎も角も労働に従事して

(以下四頁へ續く)

平均一家族に付き三俵乃至四俵の珈琲を採收してあるが、美まされたが、然し採收し得る鹿兒島縣移民は満足せぬ。所謂移民社の題目を標に取り、動かし、華人種族なる查公上りの原某が主謀となりて、百人を煽動し、耕地の命令に服従せざるのみか、伊國移民の子豚を殺し、鶏を絞殺し、亂暴狼籍の極果ては同盟罷業支配人リベロ氏は烈火の如く怒りて手が付けられぬ、日本移民は暴民である。一刻も耕地に置くことはならぬ、直ちに逐拂ふとて政府に電報を以て知らせた、唯さへ仕事嫌ひな佛蘭西人の後裔レフエーレ總務長官は上塚氏に早刻政府へ出頭せよと命令して来た。デューモン耕地事件にて一週以上も寝食意の如くならずして身體棉の如くになつてゐた上塚氏は「又何か起きたか」と灰色の雲が顔に浮べつ余と共に政府に出頭して、総務長官に刺を通じた、と買て、長官は「サンマルテニョ耕地の日本移民は同盟罷業をなし、刺へ暴舉に出でんとするの形勢あれば、明朝労働局長フエラス氏と同行して同耕地へ急行し相當の處置を取るべし、旅費は歸聖の上政府より支辨す」と嚴かなる命令、委細承知とばかりに引き退がつたが、扱て旅費がない、前の日上塚氏が金一ミル雷斯を持つてゐたのをカスロン印の巻煙草三個とマツチを買ふて上塚君、宮崎君と余とで分配してしまつた、仕方なく藤崎商會の支配者(故)佐藤君に事情を打ち明け旅費の貸與を哀願したが、當時の殖民會社は藤崎商會にさへ信用がなかつたので、佐藤君から殖民會社に借すべき金はないと断られてしまつた、困まつた、明日は是非共サ



况實の收採珈 州ロウマンサ爾西刺伯

「た、早く局長さん」汽車は暴民鎮と殺氣天に滿ち、彼等の態度の猛惡なること、田原坂の戦もかくやありしと想像さるるのであつた、移民は「移民會社が一日五圓四十錢を儲け得ることを望むは嘘である、騙された、たいごんは騙されて働かされて居らん、一日五圓四十錢儲かる方法が立内はたいごんは何時迄も働かぬ、耕地が食料品を借さねば借さぬでもない、干乾になつて居らん、何でも手當り次第食ふてしまふ、耕地が兵隊を以てたいごんを脅かし、てゐるが兵隊なんか恐ろしいものか、云ふかと思へば直ちに働かぬと脅す、危険だ、日本移民には一人も要がない、移民會社に引取つて貰ふと言ひ切つた。萬事休せり、移民は頑迷不靈にして御し難く、支配人は怒氣天を突き立て組すべからず、夫れが夫れでも鹿兒島縣移民は他く迄も反抗して喧しうして上塚氏の耳を引張り唾を吐き掛け小石を投げ付けた、余は餘りの狼籍を見て、憤慨した「た前達は何んだ、移民か、今上塚氏が詳々として云は、即日放逐と決した、けれども支配人は如く會社の不明は幾重にも謝し又代理人としての不行届は地に伏して謝する、長くとは云はぬ今少し辛棒して呉れ玉へと斯く迄願ふに併し何んでも拜み倒せとばかりに、前達は分らぬか會社の人として移民保護の爲め渡伯以來苦心慘愴夜も寝ず食事も満足にせずして何事も移民及び同胞の利益の爲めに粉骨砕身して以て之が解決に盡して居る、た前達は自己の慾望を敢行せん爲めに無理難題を吹き掛け、而して液を吐き掛け、小石を投げ付け、何を事か、暴民も甚だし上塚氏が許さずとも余は断じて許さぬ、た前達は支配人が云ひし如く全くの暴民である、余は暴民としてた前達を處分する、上塚氏最早此等の移民に説く要はない、引上げよう」所が弱く出れば付け上る、強く出れば辟易するが此の徒の持ち前、道がの動桿を以て任じゐたる原公上りも處分の言に太く驚かされ掌を返すが如く「解りました、働きます」と平蛛蜘蛛に響かした、よつて今後の注意を審かに述べて上塚氏と余とは午前六時頃移民部落を引上げて来た、うして支配人及びフエラス氏に移民は意志の疎通を缺きたる爲め今回の如き事を起したるも本日より再び労働すべければ寛容ありたしと乞ふた、處が翌日の午後になると移民は又た働かぬと云ひ出した、上塚氏と余と再び説論の爲め部落に出張して百方

祝同胞發展十週年
海外興業株式會社
東京市京橋區宗十郎町十三番地

祝同胞發展十週年
伯刺西爾拓殖會社
「イグアペ」植民地

説いて説きまくつたけれども、立小便をしてゐる。余は無言で...

して立小便をしてゐる。余は無言で、平野君其の人も自惚れること...

出来ぬと思ふ。ソブレード耕地。大野君の部下に於てフロレス...

伯刺西爾第一回移民を取扱ひたる。皇國殖民合資會社は移民輸送より...

伯刺西爾第一回移民を取扱ひたる。伯刺西爾第一回移民を取扱ひたる...

伯刺西爾第一回移民を取扱ひたる。伯刺西爾第一回移民を取扱ひたる...

伯刺西爾第一回移民を取扱ひたる。伯刺西爾第一回移民を取扱ひたる...

祝同胞發展十週年 伯刺西爾移民組合 伯國支部 出張所 同リベロンプレト

カンブイ耕地 旅館、和洋御料理 月見亭

米國式洋服裁縫 矢部洋服店

小笠原尚衛 旅館、和洋御料理

